

川崎市立川崎病院

令和6年度第3回地域医療支援病院運営委員会 会議録

1 開催日時 令和6年11月19日(火) 13時30分～14時00分

2 開催場所 川崎病院7階講堂

3 出席者

(1) 委員

古川 智洋 (委員長)	川崎区医師会会長
大塚 宏之 (副委員長)	川崎市医師会理事
今井 雅文	川崎区歯科医師会会長
小林 英之	幸区医師会会長
髭内 宏光	幸区歯科医師会会長
小林 由紀子	幸区薬剤師会
八木 美智子	川崎市看護協会常務理事
山田 義孝	川崎区連合町内会
砂川 康弘	川崎市健康福祉局保健医療政策部
若尾 勇	川崎区役所地域みまもり支援センター副所長
小川 晶	川崎市消防局川崎消防署長

(2) 川崎病院

野崎 博之	病院長
澤藤 誠	副院長兼患者総合サポートセンター所長
金尾 邦夫	救命救急センター担当部長 (代理)
鬼澤 勝弘	歯科口腔外科部長
荒井 園枝	副薬剤部長 (代理)
池本 孝司	放射線診断科担当課長
瀬川 裕	事務局長
伊藤 猛	事務局庶務課長
酒井 俊明	事務局医事課長
高橋 智常	患者総合サポートセンター副所長
舘山 奈緒子	患者総合サポートセンター担当課長
藤平 高志	患者総合サポートセンター担当課長
石井 さくら	患者総合サポートセンター

4 資料

資料1	紹介率・逆紹介率について
資料2	緊急受診・転院依頼応需状況について
資料3	医療機器共同利用予約受付件数について
資料4	PET-CT運用実績について

- 資料 5-1 地域の医療従事者を対象とした研修について（医師）
 - 資料 5-2 地域の医療従事者を対象とした研修について（看護師）
 - 資料 6-1 連携登録医の登録状況等について
 - 資料 6-2 新規登録等の連携登録医療機関一覧
- その他資料

前回運営委員会会議録
地域医療連携便り V o 1 . 4 4

5 議 事

- (1) 開 会（司会進行 高橋患者総合サポートセンター副所長 (2) まで）

司会挨拶

- ・会議公開の確認
- ・委員全員の同意により公開。傍聴希望者なし。

- (2) 病院長あいさつ

(野崎病院長)

11 月の初めは、地球温暖化のせいか太平洋に台風が 4 つ現れるという恐ろしい天気であったが、あっという間に寒くなり、体調を崩す方もいる状況だと思う。最近、自治体病院として全国自治体病院学会や全国公立病院連盟総会などで出張に行った。首都圏にいとそれほど大きくは感じないが、2040 年問題、人手不足問題が大変な状況になりつつあるのが地方の実態であると感じた。まだそのような問題は出ていないが、医療は非常に人手が必要となるものであるため、この病院は果たすべき役割を果たして、他は地域にお任せするというように協力していかないと生き残れないということをこの 2 回の委員会の中で痛感した。当院の現状を知っていただき、直すべきところは直していき、地域医療に貢献していきたい。

(古川委員長による進行)

- (4) 議事録署名人選出

川崎市審議会等の会議の公開に関する条例などに基づき、会議録の作成と、委員による当該会議録の確認が必要なため、委員会開催の都度、委員長が指名。古川委員長が今井雅文委員を指名し、今井委員の承諾により議事録署名人となる。

- (5) 議 題

議題 1 紹介率・逆紹介率について

(澤藤副院長)

- ・令和 6 年度 7 月から 9 月の月平均は、紹介患者数が 1,028 人、逆紹介患者数が 1,515 人、初診患者数が 1,367 人。紹介率は 75.2%、逆紹介率は 110.8%となっている。昨年度とおおよそ同じような数になっているということで、地域医療支援病院の承認要件を満たしている。

追加で説明すると、紹介いただく患者さんの数が少しずつ増えていて、紹介率も上がっている。当院は地元根付いた病院で、直接当院にかかる方も多く、紹介率が上がらない時期もあったが、最近は紹介状をお持ちの患者さんが多くを占めるということで、地域の医療機関の中での機能分担ができてきていると考えている。

(古川委員長)

- ・紹介率が100%に達さない事情としては具体的にどういう事例があるか。また、逆紹介率が100%を超える要因は何か。

(澤藤副院長)

- ・紹介率が100%にならないのは、高い初診料を払ってでもかかりたいという方や生活保護を受けている方もいらっしゃるから。逆紹介については、複数の逆紹介状があると重ねて算定されるから、数値が若干高くなっている。

(古川委員長)

- ・生活保護の方が飛び込みで紹介状を持たないで来た場合は、選定療養費をとることができないからということか。

(澤藤副院長)

- ・はい。

(古川委員長)

- ・場合によっては生活保護の方にそういうことをしてる可能性もあるということか。

(澤藤副院長)

- ・はい。

議題2 緊急受診・転院（転入）応需状況について

(澤藤副院長)

- ・7～9月は、酷暑ということもあり、具合が悪くなる方が多くいらっしゃるため、依頼件数が少し多くなっている。特に7月が多い。川崎病院としてはできるだけ応需したいが、ハードの面、ソフトの面で完全には応需しきれないということで応需率は少し下がってしまっている。転院については、全員お受けしている。

議題3 医療機器共同利用予約受付件数について

(藤平担当課長)

- ・令和6年度4月から9月の10の検査項目等に対しては、計309件の予約受付があった。令和元年から令和5年度の5年間の平均受付件数は830.8件となっている。

(古川委員長)

- ・0件の項目もあるが、見直し等は何か考えているか。

(藤平担当課長)

- ・現時点では検討していない。ただし、若干全体的な件数が減っているということもあるため、広報をしていかなければならないと考えている。

(野崎病院長)

- ・近隣にCTやMRIを専門にとるクリニックもあるため、その点ではなかなか増えないが、骨塩や骨シンチに関しては宣伝の余地がある。中でも最も宣伝の余地があるのは、栄養相談だと思うので、強化していきたい。

議題4 PET-CT運用実績について

(池本担当課長)

- ・7~9月の件数は、106件、94件、98件と順調に実施している。

(古川委員長)

- ・近隣だとPET-CT運用しているところはどこか。新横浜以外にもあるか。

(池本担当課長)

- ・聖マリアンナ医科大学病院と、かなり遠くなってしまうが、新百合ヶ丘総合病院がある。

(古川委員長)

- ・では、この地区では川崎病院のみか。

(池本担当課長)

- ・はい。

議題5 地域の医療従事者を対象とした研修について

(藤平担当課長)

- ・令和6年度の地域の医療従事者を対象とした医師用の研修は、4回実施しており、合計100名の受講者があった。

(舘山担当課長)

- ・地域の医療従事者を対象とした看護師用の研修について、4回終了している。資料準備の都合上、11月14日開催の研修受講者数が記載されていないが、16名の参加、視聴があった。合計で171名の参加、視聴があった。

議題6 連携登録医の登録状況等について

(藤平担当課長)

- ・令和6年10月1日現在で、前回から3件増えて611の医療機関等に御登録をいただいている。増減の内訳について、医科は新規が3件、閉院し登録削除したクリニックが1件、歯科では新規が2件、閉院し登録削除したクリニックが1件あった。

その他について

(藤平担当課長)

- ・お手元に前回の会議録と地域医療連携便りを配布しているので後程ご確認いただきたい。
- ・次回開催は令和7年2月4日火曜日、本日と同じ13:30開催を予定している。近くなったら開催通知を送付する。

(野崎病院長)

- ・先程の続きになるが、地方の人手不足問題があつて、我々も準備しなければいけない。例えば、検査の説明等を看護師がしてくださっているが、地方はビデオに録画してタブレットで視聴してもらっているところもある。現在、外国人患者受入れ認証機関として認証されているが(JMIP)、ビデオであれば英語や中国語などに訳せば対応ができるため、そういう形を取り入れていかないと川崎病院も厳しい状況になっていく。若手を育てるため専攻医がかなりいるが、地域の皆様方と協力しなければやっけないのが医療なので、よろしくをお願いします。

(今井委員)

- ・救急車で搬送された場合は、紹介にはならないか。

(澤藤副院長)

- ・計算上は入らない。

(今井委員)

- ・入らないとなると、緊急搬送が多くなればなるほど、紹介率が下がっていくのか。

(野崎病院長)

- ・分母から抜かれて分子からも抜かれるので同じ。この紹介・逆紹介率は地域医療支援病院用の式で計算している。提出先によって計算式が定められている。紹介受診重点医療機関というのもあって、この場合は基準が再診患者の中でどれだけ有効な患者がいるかということになる。再診患者の中で除外していいのは化学療法をやっている人や高額な検査をやっている人などと決まっているので、難病の患者がたくさんいても対象ではない。その基準を満たさないといけないとなると、従来であれば川崎病院で診ていた再診患者をできるだけ逆紹介することも考えていかなければならない。

(八木委員)

- ・看護師の人材確保が厳しく、とりわけ川崎市の離職率も他の市に比べて高い。11月2日にこの会場で「KAWASAKI 看護の魅力発見フェア 2024」をやらせていただいた。例年人が集まらないが、今年は複数の学生や仕事をしていない看護師に来ていただき、かなり賑やかなイベントになった。その意味で川崎病院は川崎市の中でも看護師確保の砦となっていると感じた。

(司会を事務局へ返す。)

(9) 閉 会

(澤藤副院長)

人手不足の中で、医師は働き方改革で就業時間制限が設けられた。当直明けの医師が早く帰ったり、男性も育休をとる人が出てきたりしている。実労働する医師が若干手薄になってきている中で、夜間の診療の質を下げないように工夫して対応している。少しずつ機能分担が進んできているので、地域医療は地域全体でやる必要があると感じる。

以上